

II 平成29年度普及指導員活動計画

資料1

(1) プロジェクト課題一覧表

No	プロジェクト課題名	計画期間	対 象 (対象農家・地域名等)	進行管理担当班 担 当 者 名
1	集落営農100ha法人の鉄人化計画の推進 (「魅力ある農業」関連課題, 「中間管理事業」関連課題)	H27~H29	(農) 井土生産組合	地域農業班 ◎鈴木智貴, 守屋明良 長田幸浩, 鈴木康成 高橋真樹子, 小田中大輔 農業革新支援専門員 (佐藤地域農業班長)
2	仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化 (「魅力ある農業」関連課題, 「中間管理事業」関連課題)	H29~H30	(農) ファームセヶ浜 (農) グリーンファーム 松島 (農) 岩切生産組合 (農) せんだいあらはま (農) 六郷南部実践組合	先進技術第二班 ◎高橋真樹子, 泉澤弘子 佐藤郁子, 丹野美和 長田幸浩, 鈴木康成 服部信次 (鈴木先進技術第二班長)
3	中山間地域の農業を担う新設法人の体制整備	H29	(農) あきう生産組合	先進技術第二班 ◎齋藤雅博, 佐藤郁子 鈴木智貴, 早坂浩志 服部信次, 小田中大輔 (鈴木先進技術第二班長)
4	曲がりねぎ販売額1億円を目指す指定産地の育成	H27~H29	J A あさひな ねぎ部会	先進技術第一班 ◎笹原教子, 井上眞弘 大河原香織, 飯沼千史 早坂浩志 (飯沼先進技術第一班長)
5	安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成	H28~H30	富谷市ブルーベリー生産者, 黒川郡ぶどう生産者	先進技術第一班 ◎上野慶紀, 佐藤昌幸 佐藤秀俊, 飯沼千史 齋藤雅博 (飯沼先進技術第一班長)
6	就農計画の早期達成による新規就農者の定着促進	H27~H29	認定就農者, 認定新規就農者, 新規就農者	地域農業班 ◎大河原香織, 佐藤秀俊 笹原教子, 上野慶紀 (佐藤地域農業班長)

1. 集落営農100ha法人の鉄人化計画の推進

目標年度：平成29年度 売上高：1億3千万円

- 活動期間 平成27～29年度
- 対象者名 仙台市若林区 農事組合法人 井土生産組合
- 課題の背景

集落全域が津波被災した仙台市井土地区は、集落全戸の合意により100ha規模の法人を立ち上げ、平成26年度から営農再開した。大規模畑地15haによる収益性の高い園芸と、直播技術を導入した大規模省力水稻栽培を組み合わせることで、若い担い手が定着する財務体質の極めて強い魅力ある経営を目指す。

平成29年度成果目標及び活動項目

中間評価

1. 園芸栽培技術の向上支援
 - 作業計画、防除暦に基づいた作業実践と栽培技術の高まりで収量や品質はさらに向上する。



2. 販売力強化支援
 - イベント等の企画力向上により、人が集まるコミュニティ再生の場が形成されるとともに、実需者からの引き合いがさらに強まる。



3. 営農システムの効率化支援
 - 水稻直は栽培の定着で園芸に特化した収益性の高い経営体となる。



1. 園芸栽培技術の向上支援

作業方法の見直し等によりねぎ・たまねぎは順調に生育し、たまねぎは前年より収穫量が増加している。ミニトマトは昨年を踏まえ防除暦を作成して計画的に管理を進め、収穫量約2倍で推移している。

2. 販売力強化支援

昨年度の多くの経験を踏まえ、普及からの提案だけでなく、組合が自らの実情を踏まえつつ、PRの場を理事会で決定し、マッチングフェア等に参加できるようになった。

3. 営農システムの効率化支援

水稻直は栽培の技術はほぼ定着している。Akisaiは作業の入力が翌日には終了しており、通常作業として定着してきている。新たにタブレットを2台導入し、入力環境の改善がなされている。

入力データの分析ができるようになってきて、作業の遅れや計画変更の必要性が組合として確認できるようになってきた。

平成29年度の普及活動の特徴

関係機関との連携

- 園芸担当普及指導員による栽培技術の向上支援活動を行う。
- 組合自らが生産販売計画を樹立し、生産物の商品価値を把握することで、独自で営業できる資質向上を支援する。
- 直は栽培の播種、水管理、除草剤散布の適期を自らが判断し、実施するための判断力をつけさせる。
- タブレット等情報端末を積極的に活用し、日報記帳を行い、自らが作業内容を分析して作業改善に取り組めるよう支援する。

- JA仙台と全農みやぎ
販促活動の主体
- 仙台市
地域振興施策としての関与と支援
- その他民間企業
業務用野菜の実需者
小売を担う業者との販促連携
- 試験研究機関
土地利用型園芸や水稻省力化栽培技術支援
GGAPや業務用野菜経営指標策定支援

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.1

課題名：集落営農 100ha 法人の鉄人化計画の推進

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
<p>○園芸栽培技術の向上支援</p> <p>○現状（活動前） 収量向上の一方で園芸全体の作業計画の状況に応じた変更や防除暦作成に至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術，防除暦作成，作業計画作成を指導した。 ・地下灌漑設備が導入された水田でのねぎ栽培を指導した。 ・畑地ねぎほ場の排水対策を指導した。 <p>現地活動日数 21 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨後のねぎほ場の巡回を自ら行い，状況により積極的に排水を実施するようになっていく。 ・ミニトマトは昨年を踏まえ防除暦を作成，計画的に実施している。 ・たまねぎは前年を上回る収量見込み。ミニトマトは前年の 2 倍ペースの収量。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎ収量の増加に伴い，出荷調整に時間がとられている。他作物との作業，人員配置等の計画が追いついていない。状況に応じた計画の変更と，変更後の計画の実行に向けて引き続き支援する予定。
<p>○販売力強化支援</p> <p>○現状（活動前） 井土ねぎの知名度は向上したものの，企画・開催した販促イベント等の未熟さが目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebook，HP 等の情報発信ツールのさらなる活用を促した。 ・たまねぎの出荷戦略会議に対応した。 ・各種 PR 活動の紹介，助言をおこなった。 <p>現地活動日数 9 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年までの経験を踏まえ，普及に頼ることなくマッチンフェア等に積極的に参加している。 ・PR 活動については実情を組合自ら考え，組合のメリットとなる活動を理事会で決め，選んで行動できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に追われ情報発信ツールの更新が定期的に行われていない。 ・井土ねぎブランドと業務加工用野菜の区別をはっきりさせる必要がある。 ・昨年の販促イベント等の反省を踏まえ，クレーム等のない成熟したイベント企画立案を支援する予定。
<p>○営農システムの効率化支援</p> <p>○現状（活動前） ICT が十分活用されていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直は栽培ほ場の水管理，出芽管理，除草（除草剤）管理，肥培管理について随時，ほ場の確認と指導をおこなった。 ・入力された Akisai データを活用し，ICT 活用指導会で使用するデータを自分で分析，発表させた。 ・インターンシップの受け入れを支援した。 <p>現地活動日数 20 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水直はは出芽遅れと雑草が少し見られたものの，乾田直は含めおおむね順調で，収量も前年同等を見込める生育となった。 ・新たにタブレットを 2 台導入し，入力環境の改善や，Akisai では翌日には作業の入力が終了するなど，通常作業として定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組合全体で Akisai の重要性が認識されつつあり，これを活用した定期的なデータ分析と計画変更にも活用できるようになることが必要。 ・直は栽培の導入による水稲部門の省力化と，園芸部門の収益性を分析する予定。
<p>○その他 (後方支援等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農振課のハンズオン事業の活用による経営改善支援。 ・GGAP 並びに加工業務用野菜経営指標の農園研課題とのマッチング。 ・ねぎ関連製品の開発等支援。 		

<対象からの意見及び評価>

昨年までの経過で組合の力は大きく向上したと感じている。役員や従業員も責任意識は高まっている。Akisai もデータがそろってきて本格的にデータ活用をしていきたい。プロジェクト最終年度も引き続きご指導お願いします。（鈴木組合長）

2. 仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化

目標年度：平成30年度 経営ビジョン策定法人数 2→5

- 活動期間 平成29～30年度
- 対象者名 (農)ファーム七ヶ浜, (農)グリーンファーム松島, (農)岩切生産組合
(農)六郷南部実践組合, (農)せんだいあらはま
- 仙台東部地区では東日本大震災後、農地の受け皿として法人が設立され、平成26年度には土地利用型では最も多い5つの法人が設立された。
- 経営者マインドの育成や経営計画に基づく実践活動をサポートし、法人の経営体質強化に向けた支援を行う。

平成29年度成果目標

活動項目及び中間評価

1. 経営者マインドの育成

- 組織運営支援を通して意識醸成を図り、法人内の合意のもと経営ビジョンが策定される。
- 合同研修会、意見交換会を通し法人間の連携が促進され経営者マインドが育成される



経営目標の明確化・共有化支援

- 経営ヒアリング、課題の洗い出し
- 支援に向けた関係機関との打合せ
- 法人化連携の促進
法人合同研修会の準備

複合経営部門の生産安定支援

- 転作大豆生産安定支援
- 園芸作物技術定着支援
(ミニトマト等)
生育調査結果に基づく栽培管理指導
定期的な現地巡回指導
(井戸除塩対策実施支援)
かん水処理による塩類濃度低減実証

2. 経営計画に基づく実践活動の支援

- 転作大豆、園芸作物の安定生産が行われることにより、水田営農を核とした複合経営が実践され、持続可能な農業経営が展開できるようになる



平成29年度の普及活動の特徴

関係機関との連携

- 組織内で経営課題の共有化をすすめ、集合研修を通し経営管理・組織運営についての意識啓発を図ると共に法人間の連携を促進する。
- J A 仙台、仙台市と連携を密にしながら、連携して支援にあたる
- 必要に応じて民間専門家の指導を受けながら、法人マネジメント能力の向上を図る

- J A 仙台 研修会共催、情報共有
- 仙台市 情報共有
- 宮城県担い手育成総合支援協議会 経営管理・計画作成支援
- みやぎ産業振興機構 民間専門家の派遣

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No2

課題名：仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
<p>経営者マインドの育成と組織運営体制の強化</p> <p>■現状 法人設立し2年が経過したが、法人としての基盤づくりはこれからといった法人が多い。 経営者である理事の年齢層が高く、旧来の個別経営、もしくは任意組織における経営感覚からの脱却が課題である。</p>	<p>○経営目標の明確化・共有化支援 ・経営ヒアリング、課題の洗い出し ・支援に向けた関係機関との打合せ(JA 仙台、仙台市)</p> <p>○法人間連携の促進 ・法人合同研修会の準備 作業計画進捗管理状況の聞き取り</p>	<p>・経営拡大による設備導入を検討している法人があり、法人内での合意形成が課題となっている。</p> <p>・作業計画の進捗管理については組合長ひとりに頼っている法人が多く、負担が大きくなっている。法人内で情報共有、分担できるような仕組みづくりが必要である。</p>	<p>・組織運営支援（経営目標策定支援） ・関係機関と連携した、経営計画の作成支援</p> <p>・法人合同研修会の実施（11、12月計2回）</p>
<p>経営計画の実践による水田営農を核とした複合経営の安定化</p> <p>■現状 せんだいあらはまのミニトマトについては、夏場の栽培管理が不十分であり、収量低下が課題となっている。 六郷南部実践組合については藤塚地区のハウスに試用する井戸で塩類濃度が高まり、野菜の生育に影響を及ぼしている。 グリーンファーム松島、ファーム七ヶ浜については、野菜栽培を開始したばかりであり、基本的な技術が習得されていない。</p>	<p>○転作大豆の生産安定支援 ・JA 仙台大豆生産部会研修会での栽培技術指導 ・生育調査ほの設置、調査 ・調査結果にもとづく栽培管理指導 ・肥培管理・病虫害防除指導</p> <p>○園芸生産の技術定着指導（ミニトマト） ・生育調査ほの設置、調査 ・調査結果にもとづく栽培管理指導 ・病虫害防除指導</p> <p>(井戸除塩対策実施支援) ・逆浸透膜装置の設置、運営支援 ・かん水処理による塩類濃度低減実証</p> <p>(園芸基本技術習得支援) ・病虫害防除指導 ・ほ場巡回指導</p>	<p>・基本技術に基づいた適期作業が実施された。</p> <p>・作付けも4年目になり、自ら判断し栽培を行うようになった。反面、慣れにより、管理に不手際が生じる場面も散見される。</p> <p>・装置で処理した水を大量にかん水することにより、地表面より0～10cm深さの層のEC値の低減が見られた。</p> <p>・松島についてはねぎ、かぼちゃを中心とした野菜を生産しており、現在のところ生育は順調である。</p>	<p>・大豆収量向上に向けた支援（病虫害防除技術習得支援、収穫指導）</p> <p>・ミニトマト収量向上に向けた支援（病虫害防除・肥培管理技術習得支援）</p> <p>・除塩に必要なかん水量の検討 ・処理後に作付けした作物体及び土壌の成分分析を行い、効果の検討を行う。</p> <p>・野菜栽培技術の習得支援 ・生産実績検討、次年度の生産計画策定支援</p>

＜対象からの意見及び評価＞

- これまで大豆のみで行ってきたが、地域水田の担い手が減少してきている今、法人で水稻栽培に取り組む必要性が高まってきていると感じている。法人内で合意形成を丁寧に行い、次のステップへ踏み出したいと考えているので、引き続き組織運営等の指導をお願いしたい。(農)岩切生産組合 代表理事 加藤健氏)

3. 中山間地域の農業を担う新設法人の体制整備

目標年度：平成29年度 新規園芸品目の導入 H28 0品目 ⇒ H29 1品目

- 活動期間 平成29年度
- 対象者名 農事組合法人あきう生産組合
- 課題の背景
- 仙台西部地区では、農業従事者の高齢化や後継者不足、鳥獣被害が年々深刻になり、担い手不足や耕作放棄地の解消等が課題となっている。秋保地区では平成28年2月に(農)あきう生産組合が西部地区における初の法人化を果たした。
- 法人経営上重要とされる経営計画の明確化など組織体制の整備が課題となっており、経営の安定化を図るため、観光地である地元での直売を想定し、中山間地域に適した新規品目の導入意向があるが、栽培品目の選定や生産・販売体制について十分な検討がなされていない状況にある。

平成29年度成果目標

活動事項及び中間評価

■ 定性的目標

地域資源を活かした経営計画が作成される。

中山間地における直売を想定した新規園芸品目が導入される。

■ 定量的目標

新規園芸品目の導入
H28 H29
0 ⇒ 1品目

■ 生産技術向上支援

栽培技術の巡回指導

大豆の生育調査

- ・大豆の排水対策について指導助言を行った。
- ・大豆の生育調査により、排水対策について指導した。

■ 資質向上支援

先進地視察研修の開催

- ・今後、中山間地域における園芸品目等導入の優良事例の視察研修を開催。

■ 経営管理能力向上支援

J A 仙台担い手支援課と連携した営農計画策定支援

- ・水稲、大豆、そば生育状況を確認し、各々の収量を基にした営農計画作成を支援する。

平成29年度の普及活動の特徴

関係機関との連携

■ 経営の基幹となる水稲、大豆、そばについて巡回により栽培技術支援を行う。

■ 新たに取り組む園芸作物の栽培技術支援を行う。

■ 仙台市：園芸作物等収益向上支援事業
パイプハウス設置助成事業

■ JA 仙台西部営農センター：新規導入園芸品目の生産・販売支援

■ J A 仙台担い手支援課 経営管理支援

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.3

課題名：中山間地域の農業を担う新設法人の体制整備

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
1) 地域資源を活かした経営計画の作成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・決算書から水稲、転作そばの低収量の現状を確認。 ・メーカー主導により密苗栽培 3.7ha を確認。 (組合員の1人が「だて正夢」35a 作付。) ・大豆の排水対策について指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水稲、転作大豆は計画どおりに作付けされているが、転作そばは 7/27,28 に約 6 ha 播種したが、天候不順により残りの約 14ha は延期していたが、役員会で検討した結果、地力増進作物として大麦の種子を手配する事となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水稲、転作大豆、そばの収量を確認。JA 仙台担い手支援課と連携し経営計画の作成について支援する。 ・中山間地における園芸作物導入の優良事例を視察研修する。
2) 直売を想定した新規園芸品目の導入支援	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗ハウス活用について働きかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する株式会社秋保ファーマーズがリーフレタスを栽培に活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA 西部営農センターと連携し、育苗ハウス 2 棟（リーフレタス、中玉トマトの後作）でちぢみ雪菜、ちぢみホウレンソウを推進する。
3) その他の動き (仙台市園芸作物等収益向上支援事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度東北大学農学部へ委託したあきう生産組合の作物別の労働時間について報告があり、時期別労働時間を考慮した園芸作物導入を推奨した。 ・仙台市事業により鳥獣被害を受けない作物としてパイヤを試作した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗ハウス 1 棟を活用し、直売に取り組む女性 6 名が生産・販売する事となった。 ・農学部は労働時間や生産に関する調査を実施。 ・梅雨明け以降の天候不順により灰色かび病の発生やホルモン処理の遅れにより、想定した収量は得られなかった。 ・パイヤ約 60 本を定植した。 ・農学部が生育調査を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市が、東部地区で生産する法人と連携した出荷を検討中。

＜対象からの意見及び評価＞

水稲、大豆は概ね計画どおり作付けできたが、そばの播種作業は中断している状況にある。園芸作物導入については、直売を行う女性 6 名にお願いしている。後作は 2 棟ともに雪菜とホウレンソウを推進する事となったので、JA、普及センターの指導をお願いする。

4. 曲がりねぎ販売額1億円を目指す野菜指定産地への取組

目標年度：平成29年度 H30年産定植予定面積：20ha

- 活動期間 平成27～29年度
- 対象者名 JAあさひなねぎ部会（部会員89名）
- 課題の背景
黒川郡では、「曲がりねぎ」のブランド化のため、生産拡大プロジェクトを始動させ、作付面積および生産者が急増している。
地域全体の作付けは拡大している一方で、個々においては、ねぎをハウスで伏せ込む作業が過重であることから、高齢者における面積が減少しているなどの課題も散見されはじめた。

平成29年度成果目標		活動項目及び中間評価
<p>1. 集落営農組織等への作付誘導により面積が拡大する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 販売額1億円の達成に向けた支援 ■ H30年産定植予定面積20ha 		<ul style="list-style-type: none"> ◆平成29年度の新規作付予定者は4名。作付面積は16haの見込み。 ◆曲がりねぎ生産拡大プロジェクトチーム「チームねぎ」に普及センターも加わり、販売額1億円を目指して話し合いが行われた。JAより生産組織へのねぎ栽培推進計画の提案があり、8月に推進生産組織の選定及び提案書作成、9月以降に訪問し作付けにつなげる計画とした。提案書の資料として、普及センターより経営収支試算表及び栽培技術体系を提案した。
<p>2. 高齢者でも曲がりねぎが生産できるようになる</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆負担の大きい施設やといの作業を軽減するため、作業時間の聞き取り調査を行い、露地やといの省力性を数値化した。新たな作型として露地やといを提案し、早期出荷分への対応という形で導入される見込み。
<p>3. 持続可能な生産に取り組むようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 土づくり・病害虫対策支援 		<ul style="list-style-type: none"> ◆作付ほ場の土壌分析を実施した部会員はメンバーの約30%であった。 ◆水田におけるねぎの安定栽培を目的に、モミガラ補助暗きよを施工し排水性改善実証ほを設置した。 ◆農薬普及展示ほを設置し、防除効果や散布方法の省力性を調査した。
<p>4. 曲がりねぎのコンセプトに合った作付品種基準が明確になる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな3品種について品種比較ほを3か所に設置し、生育調査を行った。

平成29年度の普及活動の特徴	関係機関との連携
<ul style="list-style-type: none"> ● 集落営農組織等への作付誘導により作付面積の拡大を図る。 ● 持続可能な生産に取り組むよう土壌分析や病害虫防除対策を徹底する。 ● 消費者の嗜好にマッチした品種の選定とそれら品種の作付推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● JAあさひな「チームねぎ」 作付面積および販売ルート拡大、並びに消費宣伝等 ● 関係町村 生産向上につながる各種事業導入等に関する支援

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.4

課題名： 曲がりねぎ販売額1億円を目指す指定産地の育成

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
<p>◆活動事項 生産振興策</p> <p>◆現状(活動前) 黒川郡では曲がりねぎの作付面積が増加しており、JAあさひなではブランド化のため生産拡大プロジェクトを始動。高齢化に伴う作付けの減少や連作障害の発生も散見され、販売額1億円を目指した生産拡大及び産地維持体制の整備が急務となっている。</p>	<p>①生育ステージにあわせた現地指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗時期及び定植後の管理時期に巡回指導。 ・栽培講習会・現地検討会 <p>②作業軽減策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者聞き取りによるやとい作業時間の把握 ・新たな作型「露地やとい」の提案 <p>③指定産地に向けた協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねぎ部会役員会 ・生産拡大プロジェクトチーム「チームねぎ」に普及センターも加わり会議開催 <p>◆現地活動日数 22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度の新規作付者は4名、作付面積は16ha。巡回指導や栽培講習会により育苗及び定植は順調に行われた。 ・JAあさひなより生産組織への栽培推進計画の提示があり、8月に提案書作成、9月以降に生産組織の選定及び訪問し作付につなげる計画とした。提案書の資料として、普及センターより経営収支試算表及び栽培技術体系を提案した。 ・作業軽減策として、施設やといに比べ露地やといでは作業時間を縮小できることから、露地やといを提案。従来より早い時期の出荷用として実施を検討することとなった。 	<p>○集落営農組織への作付誘導</p> <p>9月～JAあさひなとともに生産組織へ推進訪問</p> <p>11月～推進生産組織決定・栽培ほ場土壌分析</p>
<p>◆活動事項 土づくり、病害虫対策</p> <p>◆現状(活動前) 土壌分析に基づいた施肥が行われていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析施設及び肥管理指導 ・水田におけるねぎの安定栽培を目的に、本暗きよの補助としてモミサプローによるモミガラ補助暗きよを施工し排水性改善実証ほを設置した。 ・農業普及展示ほを設置し、重要害虫であるネギアザミウマ対象の薬剤について、防除効果を調査した。 ・病害虫防除巡回指導 ・輪作推進(講習会の実施) <p>◆現地活動日数 16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・14点分の土壌分析を行い、施肥管理指導した。 ・排水改善実証ほを設置することで、部会員の排水対策に関する意識が高まった。 ・農業普及展示ほの薬剤について、散布方法の省力化や高い防除効果が認められることを生産者と確認し、ねぎ部会現地検討会で情報提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析の依頼件数は少しずつ増えてはいるものの少ない状況であり、土壌診断に基づいた施肥の重要性を説明していく必要がある。 ・排水改善実証ほにおいて、収穫時期にモミガラ補助暗きよが収量及び品質に及ぼす影響を調査する。 ・ねぎを連作しているほ場が多いので、連作障害を回避するため地域に合った輪作体系を進める必要がある。
<p>◆活動事項 品種比較</p> <p>◆現状(活動前) 品種選定は主に生産者の作業性が重視された品種が選択されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エンドユーザーの嗜好にマッチしたねぎを生産することを目的に、黒川地域での栽培に適した品種を選定するための品種比較ほを設置した。 <p>◆現地活動日数 6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・品種比較ほを3カ所に設置。定期的に生育調査を行い、現地検討会で、試験ほ場を実際に部会員にみてもらいながら概況を説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷前に収量及び品質調査(糖度及び硬度の測定)を行う。目揃え会にて、部会員を対象に食味官能試験を行い各品種を評価する。これらの活動を通して、エンドユーザーの嗜好にマッチした品種の特定とそれら品種の作付を推進する。

<対象からの意見及び評価>

病害虫対策や連作障害対策をしっかりと行って高品質・安定生産を図り、産地を拡大していきたいので継続指導をお願いしたい。(JAあさひな ねぎ部会長)

5. 定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成

目標年度：平成30年度

H29目標：対象者の出荷量 ブルーベリー 750kg(H27：250kg→H28：738kg)
ぶどう 310kg(H27：0kg→H28：215kg)

- 活動期間 平成28～30年度
- 対象者名 富谷市ブルーベリー生産者(うち改植または新植実施者6人)、
黒川郡ぶどう生産者(うち主要生産者5人)
- 課題の背景
 - ・富谷市ブルーベリー生産組合では、近年の高温乾燥による干ばつやせん定技術の不足などにより果実収量が低く、技術的な改善が必要である。
 - ・H28にJAあさひなぶどう部会が設立したが、栽培技術が未熟であり、まとまった販売には至っていない。
 - ・富谷市において、洋菓子店等実需者が活用できる特産果樹が模索されている。生産振興に向けた動きがあり、H29に富谷市の15人の生産者がいちじく栽培を開始した。

平成29年度成果目標

■ブルーベリー（1）

- ・自動かん水技術の効果を明らかにし、導入が検討される。
- ・適切なせん定作業や肥培管理の実施により各年の出荷量が平準化される。



■ブルーベリー（2）

- 栽培環境や販売方法に合った「ラビットアイブルーベリー」の作付面積が拡大する。



■ぶどう・その他新規果樹

- 適切な着房数管理及び適期の植調剤処理により、高品質なぶどうが生産・販売される。



活動項目及び中間評価

■ブルーベリーの生産技術向上支援

- ・自動かん水装置の調査ほの調査により、降雨と土壌水分量の関係について把握できた。生育については、ほとんど差が見られていない。
- ・せん定や花芽制限指導により、樹勢が回復しており、果実サイズも大きめに揃うようになった。

■ブルーベリーの有望品種導入支援

- ・「ラビットアイブルーベリー」の試験栽培ほ場では順調に生育が進んでいる。
- ・富谷市ブルーベリー生産組合の苗木育成事業を活用して5品種の「ラビットアイブルーベリー」の苗木を育成中。

■ぶどうの生産技術向上支援

- ・講習会や巡回指導により、適切な管理を行っている生産者もいるが、全体を通してまだ不十分である。

■その他新規果樹の導入支援

- ・挿し木講習会や植付講習会を経て、富谷市で約30aのいちじくが栽培開始された。

平成29年度の普及活動の特徴

- 干ばつによる低収量化を克服するため、土壌かん水の効果を明らかにし、生産現場への普及を図る。
- 育てやすく食味の良い「ラビットアイブルーベリー」の導入を図る。
- 講習会、個別巡回指導によりぶどうの栽培技術の向上を図る。
- 富谷市、JA、町内実需者と連携し、新規特産果樹の導入に向けた支援を行う。

関係機関との連携

- JAあさひな、富谷市：研修会開催、情報共有
- JAあさひな、富谷市：生産向上につながる事業の実施、各種事業導入等に関する支援
- 農業・園芸総合研究所：自動かん水装置の調査ほの調査協力

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No. 5

課題名：安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
<p>◆活動事項 ブルーベリー 生産技術 向上支援</p> <p>◆現状(活動前) せん定技術の不足、干ばつによる樹勢の低下等により出荷量が減少してきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動かん水装置設置ほ場の調査等(4/7ほか9回) 農園研と連携し自動かん水装置の調査ほを設置し、生育や土壌水分等について調査している。 栽培指導(4/26ほか8回) 樹勢の強化を目的とした土づくり、新梢管理、花芽制限処理技術等を実施した。また、鳥獣害対策を試験的に2か所で実施した。 H29.3に植栽した新規栽培者3人に対し、追肥指導と新梢管理について指導した。 <p>◆現地活動日数 30日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 降雨と土壌水分量の関係について把握することができた。樹体への影響(新梢伸長量)については、ほとんど差が見られていない。 2か所の園地で樹勢が回復してきており、生産者も実感している。 花芽制限処理により果実サイズが大きめに揃い、収穫も楽になっている。 せん定したにもかかわらず新梢の伸長が不良な場合は、排水対策等を実施しているが、樹勢の回復が見られていない。植え方による根域制限が原因と思われる。 鳥獣害対策の効果がみられており、他生産者にも導入されてきている。 新規栽培者3人の樹は順調に生育している。 	<ul style="list-style-type: none"> 落葉後に、自動かん水装置の総新梢伸長量調査を行う。 →効果が見られれば、富谷市の補助対象とする意向があるとのこと。 せん定技術が少しずつ向上してきたため、冬季せん定で更なる技術向上を図る。 根域を広げるための、有機物の補給や中耕管理等を指導していく。 富谷市、JAあさひなと連携し、栽培マニュアルを作成する。 次年度新規栽培予定者への土づくり支援を行う。
<p>◆活動事項 ブルーベリー 有望品種 導入支援</p> <p>◆現状(活動前) 栽培環境に適した品種が導入されおらず、販売期間も短い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ラビットアイ試験栽培ほ場の生育調査(4/13ほか7回) 5品種のラビットアイ(3a)試験栽培ほ場において生育調査を実施。生育状況に合わせ、追肥等の指導をしている。 ラビットアイ育成ほ場の巡回(7/7) <p>◆現地活動日数 11日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試験栽培ほ場のラビットアイは順調に生育している。 他6人の生産者がラビットアイの栽培を開始している。 H29.3月から富谷市ブルーベリー生産組合の苗木育成事業を活用して5品種ラビットアイの苗木を育成中。 	<ul style="list-style-type: none"> ラビットアイ試験栽培ほ場の生育調査を行う。他に導入した生産者のほ場も巡回する。 苗木育成しているラビットアイの栽培者の掘り起こしを行う。
<p>◆活動事項 ぶどう (その他新規果樹)</p> <p>生産技術 向上支援</p> <p>◆現状(活動前) ぶどうの栽培技術が不足しており、高品質な果房が生産できていない。</p>	<p>○ぶどう</p> <ul style="list-style-type: none"> JAあさひなぶどう部会栽培講習会(4/20ほか2回) 防除層説明、無種子化指導、袋かけ指導等を実施した。特に、昨年失敗が見られたジベレリン処理方法について重点的に指導。 栽培指導(5/11ほか3回) 講習会で指導した内容が現場で実践されているか確認するため、巡回指導を実施した。 <p>○新規果樹(いちじく)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培指導(4/28ほか5回) 植付指導や挿し木指導、生育状況の確認等を行った。 <p>■現地活動日数 21日</p>	<p>○ぶどう</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な管理により高品質なぶどうを出荷している生産者もいるが、全体を通してまだ不十分である。 樹の骨格作りにおいては、かん水の過多や雑草管理の不徹底等により生育が不良な園地がしばしば見られる。 <p>○新規果樹(いちじく)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月に定植したいちじくは、凍害によりほぼ全て枯死したが、その後の挿し木等の対応によりほぼ予定どおりの本数が定植された。 	<p>○ぶどう</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術的な部分は、講習会等により指導しているので、ぶどう部会役員としての自覚を持ってもらい、ぶどうに費やす時間を確保してもらうよう働きかける。 樹齢が浅い生産者に対しては、植栽3~4年目までの骨格づくりが重要なので、冬季せん定指導等を行っていく。 <p>○新規果樹(いちじく)</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨格づくりに向け誘引講習会を開催する。

<対象からの意見及び評価>

・ブルーベリー生産者 遠藤氏

せん定指導や花芽制限指導等により、樹勢が良くなり、今年産は粒も大きく揃って収穫が楽になった。

6. 就農計画の早期達成による新規就農者の定着促進

目標年度：平成29年度 主要品目の10aあたり出荷量 H28年対比 110%

- 活動期間 平成27～29年度
- 対象者名 認定就農者(知事認定) 3名
認定新規就農者(市町村長認定) 5名
新規就農者(青年就農給付金受給者等) 3名 } 就農1～3年目までの就農者
- 県や市町村の認定を受けた就農者や給付金受給者は、所得が確保されず、経営安定課題となっている。
- 現状では就農後のフォローアップが十分ではなく、基礎的な知識や技術等を向上させる場も少ない。
- 新規参入者は、地域との関わりや農業者同士の交流も少なく、相談できる先輩や仲間がいない事も多い。

平成29年度成果指標

■定性的目標

栽培技術や経営に関する知識が向上する。

自らの判断で経営改善に向けた取組がおこなえるようになる。

■定量的目標

主要品目の10aあたり
出荷量
H28年対比 110%

活動事項及び中間評価

■生産技術向上支援

栽培技術の個別巡回指導

各種講習会の開催

・重点指導対象5経営体を選定し、重点的に個別指導を行った。対象もそれぞれ工夫しており、技術向上が図られている。

■資質向上支援

みやぎ農業未来塾の開催

経営管理講座の開催

・みやぎ農業未来塾を開催し、新規就農者同士の交流が図られた。

■経営管理能力向上支援

作付計画及び作業計画作成支援

作業計画実践支援

・モデル経営体(2経営体)に対し、作付計画及び作業計画作成支援を行い、実践や計画変更についてアドバイスを行った。

平成29年度の普及活動の特徴

■個別巡回指導と集合研修により知識・技術のレベルアップを図る。

■モデル経営体を中心に作付計画及び作業計画の作成支援を行うとともに、作成した作業計画の実践について支援する。

関係機関との連携

■市町村：就農相談会、青年等就農計画の認定、青年就農給付金事業

■農業委員会：農地に関する情報提供、農地の借用等の申請支援

■JA：生産・販売支援

*担当者会議等を開催し、関係機関で情報共有する。

プロジェクト課題中間評価検討表

課題 No.6

課題名：就農計画の早期達成による新規就農者の定着促進

活動事項	活動内容	これまでの成果 (対象の変化等)	推進上の課題 今後の活動等
<p>■生産技術向上支援</p> <p>■現状 (H29年度活動前) 対象者毎に担当を貼り付けての個別巡回指導と集合研修により、経営管理チェックシートの栽培技術の達成度がレベルアップしたが、目標とする生産量や品質が確保できていない。</p>	<p>■栽培技術個別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者毎に担当者を貼り付けた個別巡回指導。 巡回指導対象として5経営体を選定。 <p>■各種講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 病害虫防除講習会を開催した。 <p>■現地活動日数：41日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別巡回では、栽培管理や病害虫防除について、こまめに支援することができた。 前作の反省を活かしながら生産・販売に取り組んでいる。しかし、毎年環境が異なるのでうまくいかない事も多い。 対象者の講習会等集合研修への参加率は低い。栽培から販売まで一人で行うため、時間の確保が難しい。 生育データに基づいた培土や追肥の指導を、病害虫防除の指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き個別巡回と各研修にて生産技術の向上を図る。 対象者の講習会への参加率が低いので、後半に計画している土づくり講習会は各自のほ場の土壌分析結果を見ながらより実践的な個別研修の形にする。
<p>■資質向上支援</p> <p>■現状 (H29年度活動前) 視察研修会が交流場となり、新たなネットワークが築かれつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> みやぎ農業未来塾、経営管理講座への参加誘導。 <p>■現地活動日数：6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記の病害虫講習会への参加誘導を図ったが、長雨の後の晴れ間であったことから当日キャンセルが相次ぎ、課題対象者の参加はなかった。 普及センターで開催予定の経営管理講座（簿記研修）に向けて、帳簿の整理等を行うよう指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> みやぎ農業未来塾ステップアップスクールへの参加誘導。（11月） 経営管理講座への参加誘導（1月）
<p>■経営管理能力向上支援</p> <p>■現状 (H29年度活動前) H27年よりも売上は増加しているが、就農5年目の目標を達成するには、多くの課題が残されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度営農計画確認 作付け計画及び作業計画作成支援 作業計画実践支援 <p>■現地活動日数：14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重点指導対象を2経営体選定し、作付け計画及び作業計画の作成を支援した。作業計画は常に確認するよう指導した。天候等で計画変更が必要になったが、今までのように「なんとなく」ではなく、他の計画を見ながら変更することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実績から、次年度は各品目でどのくらいの生産量（販売額）を上げなければならぬかを明確にし、品目毎に対策をまとめる。 管理作業や生産量の実績について分析・評価して改善策を検討していく。
<p>関係機関との連携 ・打合せ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青年就農給付金受給者の営農状況確認、情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 青年就農給付金受給者について、市町村・JAと連携して状況確認を行い、情報共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 青年就農給付金の営農状況確認に併せて、関係機関と情報を共有する。

<対象からの意見及び評価>

作成した作業計画は全体の流れを把握でき、作成して良かった。栽培技術については就農して4年目になるが、毎年何かしら失敗があるので、引き続き技術指導をお願いしたい。